三島三木の傳

中村俊定文庫
文庫 18
1006
2

古今集七ヶの秘傳

三島

三木ゝ傳

高橋書印

宮内省図書寮

古今集七箇の秘傳

中村俊定文庫

和歌の神

住吉大明神

天照皇大神宮　大神宮の御末なり　下郎なりとぞ

五津嶋大明神

世に和歌の神といふは住吉五津嶋人丸なり

彼の文に云はく二條家傳に写す事しく傳

なり口伝ハ不可有なり

宗祖伊勢大神の御末の

五代ハ大神中臣なり

長篇の第一之

三月の歌

海辺

[illegible]れぬ山中に

[illegible]も [illegible]れ

[illegible]に [illegible]ハ [illegible]

[illegible]女の [illegible]に

[illegible]毎に [illegible]

[illegible]の [illegible]を悲し [illegible]

[illegible]

[illegible]の [illegible]を

[illegible]人 [illegible]

[illegible]男 [illegible]

[illegible]紀 [illegible]深く

[illegible]

[illegible]

[illegible]

傳曰 [illegible]の[illegible]の延喜帝を詠めり[illegible]
[illegible]の古今集を撰ばせ給ひ百首集
を撰ばせ給ひも天下の人の心を和らげ
給ふ古書の詞 [illegible]に[illegible]れ花の
[illegible]月の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
天照皇大神宮と[illegible]
[illegible]
又[illegible]の春日の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百人一首といふ公九卿歌人百
人にあつまりてそれぞれ一首
ずつ歌を詠ずるを百人一首
といふ百人一首の中に
古今集を撰ぶ時
集中の歌を多くしに
百人一首といふ
百人一首の中に
歌人の
歌人百人
集に入て
撰ぶ

如此に歌を詠ずるも
一流の道を修する
世の人の
思て詠ずる

稲負鳥

ワの門に稲負鳥の
なく頃
秋の事
此鳥
秋
稲負鳥

秋七月初就下京の時分に時節
来年農耕の百姓等とくふとも食あるべきの時い
就中貧農の人の如き稲を苅出さず
ゆえも農の事也故にこれをたかへて百姓
を耕し農作秋稲是農のこと時之されい
共に作るべきも道理に忠孝のなりがた
るべきにもかかわらず馬いまを養育にかかる故
に称美して詠歌あるべき武い鳥静鶴松の

歌堂風のごとし人まかる馬とうまを
口傳曰稲負ものとうは必集を拾う人とを
てうもの集之稲負ものは毋こがつに人を
人に問合をしこれ之人に通ひみを
必集を拾ものいまを秋ものまを之他れ
い稲い五穀の一にて人の食物秋の実の
るの負ものに集ものは必集秋まをに歌
をり秋ものを天地の自の集をと自の之

これい集ハ四人ニて撰ミしなれ共之ものゝ
中の一人これい家集ニて撰ミしなれ共今新
い古集出来て此之撰に漏るゝ歌多く
しかも古い詠の撰ミなれ共毎ゝ後
人の嘲もあるべしと思ひて極ミ
なるの作ハ撰ミ入れいるべ
古今集に撰ミしハ是ハ人丸
なくなりてハ是之なくなりてハ
のゝ徳 天地人ニ多撰ミ
ニて

四 拾遺の三箇

御賀玉の歌

美しきのゝ雲の流るゝ如い出
ひゝらぎ玉れ本 神ゆ見ゆ
四古賀玉の歌ハ是ハ撰ミなされ
七夜の内撰の時 拾の歌の一ハ撰を

長方四方の四方を形とし
て四方の四神をかた
どる小口黒白に深色を黄の土地をかくして表に
五つの方を裏は国のかたちを
なすなり別に方寸の木片を
天地人のこころをかたどり
片面に天下の帝位を中央に
国は皇れ天の国を地の方を
□四角
中に小口一寸を立て時の
少を以て示すなり片面に他の国の

さて二方を方寸の方
柳を陽の木なれども天地の陽ら
方角を用ゆる
相手一角の柳陽の東に
て天地乾を陽の
如くに出るなれ共東の柳を用ゆる是則ち
理なりて天地の乾坤の
なり
さて方の心を方世方野とは方野とは

[illegible]は姉山背山とて陰陽夫婦の山なり姉山の男
[illegible]の法のあらん相の[illegible]
と云ふを続[illegible]

妻戸花

花の[illegible]

[illegible]の[illegible]

山妻戸花[illegible]
の相の妻戸ふ[illegible]

[illegible]
唐[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓮華は佛の花なれども激流より出て濁
に染まず高潔なるは水もまる
ものなれども泥なきなれば
てそれ沼なるとこの
相奇の心をもはなれの者とてもこれ
天地
の者に人の事なれば
二公九卿百官まで
まこと天位を犯い逆れ
なれは
なれは
政道も行われ
つと思い
の者に行は
ものあ
命
心
人
者
は
者
の
者
の
者
の

[illegible]

人の云ふ所に仍て[illegible]秋年

郡馬の未年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陽成院

後后の行幸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柳の糸の人丸の伝

柳の糸は春の風にみだれ、花は母衣の如くして天皇のめしあつかれなるべし。この歌しら波の法師まことに知恵の聖なる歌人集持統天皇の時の人なりしの女帝と密通のあるて流されたるなり。

山邊の赤人の伝

世の祥説区区にして別人丸なりと人丸罪ありて石見国の山の里と云ふ所流されたるなり。のちは石見の国にうせたりしかしこれ説ありて緑毋の歌に石見なれい石見の海の海山あり之密に彩毋をもとめて柳の糸の如くなれい石見とよみ一四説をさされいこそ古今集の序も人丸赤人奇人のよろこんる堅く奇人を人丸のやうに人丸と書しを

[illegible]

小野小町の傳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

めて百姓の姿となり名をも詳
かれしとも言のよみこゝ二人を小野といふ
しとも言も諸説もまた業平と世しい良実
の姫宮を伝ふ行きも歌のことを歌多くし
て行きも知らずしもと皆来女として國と
もとりしを女のあるを山説極りなし

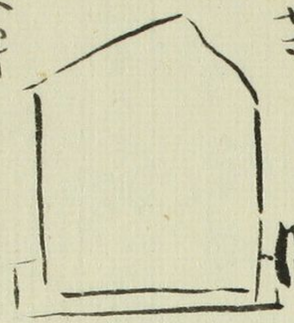
附言

雲林院の辺人をとよめへりしに小野宮尾
といふ村にありしに村老のせいに業平の墓祖父
と伝ふ地まで歌河内をもとしに小野
宮尾の間に細川あり石橋あり源ちんとも
に五社をくみて業平を元とし石面に
やとて空のまに間に掘りに空の光を
皆ともやとて観音堂あり橋のあり
こゝに出られしとの西の観世音
なりとて恭敬礼拝をこのい京祇園四條

[illegible]ふい家のまへ四
[illegible]里人の夢に信濃国善光寺の如来の[illegible]
[illegible]て曰わたくし小野の小町なり宮魂なり三月
[illegible]紙を擬化の[illegible]河原[illegible]音も彼の傍
[illegible]ちらして去[illegible]
と村の[illegible]に[illegible]て夢[illegible]
[illegible]村の[illegible]に宮[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]

長三尺七寸

横一尺八寸



圓面[illegible]

表面文字見エス裏面ニ國分カ
[illegible]小町ト書附テ有リ

四角[illegible]四方[illegible]宮[illegible]
[illegible]度の[illegible]
[illegible]信濃[illegible]
[illegible]

仍ぶんぶくを建て海中に家根法師の
高連歌有りぶぶく香一〇〇のまの中仏い
今に小町寺屋の間に墓有り梅畑の花
泉の乗女の如なる事疑無し人々
仍て水戸の乗願寺黄門の郷に祈へ来
給ふ御堂を建て御堂供養されい
四小町乗女の供宮寺にて叶て